



ジョイフル三ノ輪商店街の「ナガオカ」の五十嵐春雄さん（大正14〜平成19）の遺稿集「三ノ輪界わい名跡散歩」平成五年十二月より

次に三ノ輪界わいの寺院、神社について書いてみたいが、之については長くなるので簡略にしたいと思う。お許し願いたい。先づ西光寺。眞堂院西光寺は又は菩提院と称し、浄土宗に属し、増上寺末寺である。開山は堅譽長公大和尚と云ひ当寺の本尊阿弥陀像は慧心僧都が彫刻、又弘法大師の作と唱へる座像四尺五寸許りの地藏尊も安置されている。

コツ通りのはづれに運手山眞養寺がある。初代吉田勘兵衛という御用商人の方が寺地二千三百四十坪を寄付し鬼子母神堂、書院等を建立、寺は自性院日身の関山である。その後、災害に会い暫く本堂等が無かったが明治四十四年予区改正（日光街道拡張する）の際に敷地を徴収された時の交附金で本堂を建立したものである。コツ通りと日光街道を交差する所を少し行つて右に入った所に円心山日慶寺がある。身延山久遠寺の末寺である。同寺由緒によれば天文十六年七月の頃、日慶と号する比

丘尼があつて一寺を谷中に創設して久遠寺第二祖日向上人を開山に戴き、人々之を日慶寺渡渉した。しかるに明暦の頃に及んで堂宇廢絶し寺号のみ在するに至つたが、日相と呼ぶ。一清信の比丘尼があつて、地を自庵たる千住中村の郷竹露庵に選んで元禄十六年寺号を引移すと共に堂宇を建立して遂に当時中興の業を完了した。

日慶寺の前にあるのが、素蓋雄神社である。創建は平成七年には千二百年になる。旧杜司の石山多気乙氏の家祖の黒珍が居所の東方の樹間に連夜異光を發する奇岩を認め、これ靈石ならんと日夜礼拝していると延暦十四年四月八日夜、遂に瑞光の中に須佐之男命、大己貴命が現れて神託があり黒珍は一祠を設けて両神を祀り午頭天王飛鳥権現と敬称したに始まると云う。其の後、午頭天王の祠を西面に飛鳥権現の祠を南面に造営し、六月三日、九月十五日にそれぞれ遷座した。享保六年両社が炎上し同十二年一社を造営し之を瑞光殿とし称した。当社の祭神が翁の姿となつて現れた古跡奇岩を瑞光菴石と呼び又小岩様と云う。喜永四年、周圍に石玉垣を築き次いで元治元年浅間大神を祀り、岩石を疊んでその趣を改めた。現在、此の地名を小塚原というのは元この古跡を小塚（石塚）といったからであるとも云う。

素蓋雄神社より三ノ輪方面に行くと神島山眞正寺がある。曹洞宗に属し、当寺は今を去る三百七十余年、心翁永伝和尚の開基に係り初め、湯島にあつたが後浅草に転じ寛文元年に当地に移されたのである。満海山公春院は浄土宗鎮西派に属し、浅草聖徳寺の末寺である。開山は満海大行者と称し、元修験者であつてここは其の村里の僧坊であつた。然るに延宝寺中転じて一院となり浄土宗に改宗した。本尊は阿弥陀如来である。吉展ちゃん事件で一躍有名にしたのが、補陀山円通寺である。通称「百観音」と云う。昔、当寺は下谷の広徳寺、入谷の鬼子母神と共に「下谷の三寺」と呼ばれ箕輪の円通寺（又は新町の百観音の名で広く知られた。旧上野黒門、彰義隊戦死者墓、天野八郎墓等有名人の墓所として名高い。彰義隊戦死の墓は当時何人も捨てて観る者がなき死骸を当山廿三世大禪仏磨大和尚が義憤遣る方なく一身を賭して之を茶毘に附し義商三河屋幸三郎の助力を得て当山に収骨埋葬したのである。旧上野黒門は明治戊辰五月上野に於いて彰義隊が之に據つて大いに奮闘するも弾痕蜂の巢の如くになつたのである。当時の唯一の記念物であるが明治四十年十月帝宝博物館より円通寺に下賜されたのである。之で三ノ輪界わい名跡散歩のペンをおくが大変な拙文を申し訳なく思うが少しでも昔を想う一端を表現できれば幸甚に思います。